

<b>2. 事業の目的と概要</b>	
(1) 上位目標	小中学校での読書活動の定着化と活性化による教育環境の改善
(2) 事業の必要性(背景)	<p><b>(イ)事業実施国における一般的な開発ニーズ</b></p> <p>ラオスでは援助機関・団体などによる学校建設が急速に進み、教科書の普及も急がれている。しかし、低学年児童の進級試験不合格率は高く、最終学年(小学5年生)まで残る率は未だ70%に届かない(Global Monitoring Report 2011)。MDGsの目標2「普遍的初等教育の達成」は困難である。</p> <p>社会一般に読書の習慣がなく、入学して初めて文字にふれる児童が多く、多民族・多言語社会でありながら教育はラオ語のみで行われる(国内でラオ語以外の言語での出版は認められていない)。教員の能力は低く、多くが農業などとの兼業で生活をたて、教育者としての意識は高くない。</p> <p>ラオス政府は1989年にすべての小学校に図書を配置する「読書推進活動」を開始し、現在、小中学校約1万校中約6,000校に図書が、約1,100校に図書室が設置されている。しかし、多くの教員は自ら読書経験を持たず、読書推進の意義をなかなか実感できずにいる。</p> <p>読書活動は児童が文字に親しみ、教員の教育への姿勢を向上させる取り組みである。普遍的初等教育達成に向け、施設整備と両輪をなす教員の読書活動への動機づけを促す取り組みが求められている。</p> <p><b>(ロ)なぜ申請事業の内容となったか</b></p> <p>当会は1991年、読書推進活動に協力し、小学校への図書配付、図書管理に関する教員研修を開始した。この活動を発展させ、1995年には空き教室を活用した学校図書室整備を開始。設置校拡大とともに開設後の図書補充、フォロー研修など活性化策を講じてきた。その結果、読書による子どもの変化などの成果がみられたが、一方で課題が明らかとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修を受けた担当教員の異動により活動が停滞</li> <li>・ 図書室開放時間が短く、一人あたりの図書に接する時間が少ない</li> <li>・ 文字面を追うだけで、内容を理解して読んでいる子どもが少ない</li> </ul> <p>このように、図書室、図書の普及が進む一方で、図書そのものが十分に利用されない現状がある。背景には、前段で示したように、教員の関心が高くないことがあげられる。</p> <p>そこで当会では、読書指導の動機づけと、授業での図書活用、文章読解を促す教授法などのテクニックを教員が習得できるよう、図書活用セミナーの開催と訪問指導活動を行う。</p> <p>当会は、2009年、日本NGO連携無償資金協力を得て、1都5県73校で「小学校における図書活用強化事業」を実施した。教員は、子どもが本に興味を示すきっかけ作りができるようになり、さらに各校の課題に対処することによって図書室活動の改善に繋がり、図書の活用率が高まった。</p> <p>これらの成果を受け、国内で最も小中学校数の多いサバナケット県を中心に、同じ南部のカムアン県とチャムパサック県の小中学校34校で図書活用強化拠点をつくる事業を実施することとした。対象とした3県は、小中学校数が多く、図書室設置校も多いことから、学校間連携による効率化、波及効果の高まりが期待でき、この事業を展開することが効果的と考える。</p>

### (3) 事業内容

カムアン県(小学校4校・中学校2校)・サバナケット県(小学校5校・中学校7校)・チャンパサック県(小学校11校・中学校5校)を対象に事業を実施。学校の規模は、生徒数が少ない学校は約80人、多い学校は2400人と幅があり、対象校34校の生徒数合計は約2万人、教員数は約900人である。

#### (イ) 学校図書室担当者の面接

「図書活用セミナー」の準備調整として実施。当会スタッフ2名が郡の教育指導官と全対象校を訪問し、図書室担当者を面接。教員のセミナー受講経験と図書室活動状況を把握し、セミナーの受講レベルの振り分けを行う。図書室を毎週定期的に開放している「活発校」と、定期的に活動されていない「停滞校」の2タイプに分ける。

#### (ロ) 図書活用セミナーの開催

図書室の管理運営および、図書活用に関するスキルを教員が習得するためのセミナーを開催する。対象校の状態により停滞校と活発校の2タイプに分け、地域ごとに開催することで、教員同士のネットワークづくりも行う。全対象校を以下の4グループに分けて実施。

##### 停滞校向け(5日間)

開催地	チャンパサック県	サバナケット県
対象	チャンパサック県8校: 計16名(1校2名)	サバナケット県6校・カムアン県 3校:計18名(1校2名)
内容	(a) 図書室の管理・運営方法の基礎指導 (b) 授業での図書活用に関する教授法を指導	

##### 活発校向け(4日間)

開催地	チャンパサック県	サバナケット県
対象	チャンパサック県8校: 計16名(1校2名)	サバナケット県6校・カムアン県 3校:計18名(1校2名)
内容	(a) 図書室の管理・運営方法の復習 (b) 授業での図書活用、文章理解を促す教授法を指導	

##### 停滞校・活発校共通

#### ◆図書活用の教材

4種類の副読本を小学校は各35冊、中学校は各50冊ずつ配付。

#### ◆教育指導官の参加

読書推進活動の指導ができるよう、経験に応じたセミナーに参加。

#### (ハ) 学校訪問活動

セミナー開催後4ヶ月の間に、当会スタッフ3～4名が対象校を1回ずつ訪問し、状況に応じた相談、指導を行い、図書室活動活性化の道筋をつける。また、スキル習得状況を把握するため、研修受講者による図書活用授業の実践を観察する。校内運営の意思決定者である校長および研修未参加の教員に、授業見学や話し合いに参加してもらい、チームによる図書室運営の体制づくりをめざす。蔵書を補う図書セットを配付する。

日程は学校の状況に柔軟に対応すべく1日半～2日半と幅をもたせる。3県のうちサバナケット県、カムアン県の対象校18校を、3回に分けて訪問する。チャンパサック県の16校については次年度に訪問を行う。

	<p><b>(二) 評価会議の開催</b></p> <p>訪問活動の結果や、各図書室の活動状況に関する情報を、県・郡教育指導官と共有するための評価会合を実施する。各県内で優良事例や課題を共有する機会を設け、指導官同士のネットワークの強化をはかる。</p> <p>開催地:サバナケット県  対象:サバナケット県・カムアン県の教育指導官26名  日程:3日間(学期終了後の6~7月の期間に1回実施)</p> <p>※2年間の事業とし、小中学校での読書活動の定着化、活性化を目指す。</p> <p><b>【第1期】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校図書室担当者の面接、図書活用セミナーの開催(3県34校)</li> <li>・ 学校訪問活動、評価会議の開催(サバナケット県、カムアン県)</li> </ul> <p><b>【第2期】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校訪問活動、評価会議の開催(チャンパサック県)</li> <li>・ フォローアップ研修の開催、学校訪問活動(停滞校のみ)</li> <li>・ 評価、まとめ研修の開催(意欲的な教員及び教育指導官対象)</li> </ul>
<p><b>(4) 持続発展性</b></p>	<p>以下の体制を構築することで、事業の効果が維持可能</p> <p>(イ)複数の教員が図書室運営に関わる体制  担当教員が孤立することなく、継続的な活動が出来る。また、異動があっても、教員相互で補い合い、持続的な活動が可能となる。</p> <p>(ロ)郡教育局の担当官が学校図書室活動をサポートする体制  停滞がみられた際、助言し、サポートを得るための働きかけが出来る。</p> <p>(ハ)教員同士および県・郡の担当者のネットワーク  担当教員が孤立することなく、継続的な活動が出来る。異動の際もネットワークを活用し、他の指導官や他校教員によるサポートが可能になる。</p> <p>なお、指導官の本来業務である巡回指導の際に、読書推進のサポートも同時に行われることから、事業終了後の予算措置は必要としていない。</p>
<p><b>(5) 期待される成果と成果を測る指標</b></p>	<p><b>期待される成果</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 図書室が定期的に開放され、図書サービスを児童生徒に提供している</li> <li>2) 教員が授業で図書を活用するテクニックを習得し、授業で活用している</li> <li>3) 児童生徒が図書に親しむようになる</li> </ol> <p><b>成果を測る指標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)-1 対象校で、図書室の開放時間が増加  現在図書サービスを行っている学校は対象校の約半数であるが、全ての学校で同サービスを行う。</li> <li>1)-2 複数の教員で図書管理をしている学校が75%以上  1名であった担当を2名以上の体制とする。</li> <li>2) 図書を活用した授業を実践している教員が80%以上  セミナーを受講した教員が、自分の学校に戻り実践する。</li> <li>3) 対象校で、図書を利用する児童生徒数が増加  図書室で読書をする生徒や、図書を借りる生徒が増える。</li> </ol>